



危険いっぱい^oの普天間基地

沖縄県民と共に「基地はいらない」の声を

沖縄県では11月28日に、県知事選挙が行われます。最大の焦点は、普天間基地の辺野古移設問題です。新人の伊波洋一さん（前宜野湾市長）が「反対」を表明しているのに対して、現職の仲井真弘多さんは態度を明確にしています。

普天間基地には海兵隊のヘリコプター部隊が駐留しています。基地が市の中心にあるため、フェンスぎわまで学校や住宅が建っています。昼夜を問わずヘリコプター訓練の爆音は、人々の生活を破壊しています。04年8月には、ヘリの墜落事故も起きました。

宜野湾市の住民は、基地の即時閉鎖を求めています。ところが日米の政府は、普天間基地を閉鎖する代わりに、名護市の辺野古に新しい基地を作ることで合意してしまいました。この決定に沖縄県民は怒っています。基地の県内移設では、問題は何も解決しないからです。移設先にされた名護市では、市長選挙・市議会議員選挙ともに、移設反対派が勝ちました。沖縄県議会も移設反対派が多数です。県知事選挙で伊波さんが当選すれば、沖縄県民の意思が明確に表明されたこととなります。

日本政府は長年にわたって、沖縄に米軍基地を押し付けてきました。私たちも、沖縄の基地問題に無関心でした。しかし今からでも遅くはありません。「沖縄に米軍基地はいらない」、「日本に米軍基地はいらない」という声を一緒にあげませんか。



04年8月13日、普天間基地のヘリコプターが、基地に隣接する沖縄国際大学に墜落しました。幸い市民に死傷者は出ませんでしたが、機体は炎上して校舎を焼き、ヘリの破片は400m先まで飛び散りました。

連絡先